

子どもの気持ちになってみた

先日、都内でおこなわれていた『子どもの視展』というイベントに行ってきました。

最初は“子どもの気持ちになれるなんて面白そう”そんな軽い気持ちでしたが、実際に子どもの視点を体験してみると子どもの凄さがわかりました。



赤ちゃんって寝返りをするだけで一苦労…

保育士をしていると初めてのハイハイや初めての一步によく出会います。初めてのことが出来ると我が子のように「すごい！」と喜ぶ私達ですが、子どもからすればそれはとても大きな一歩であり、とても大変なことのようです。赤ちゃんの頭は身長約4分の1、重さは体重の30%もあると言われています。これを大人の男性に置き換えると…**頭の長さは45cm、重さはなんと21kg!**実際にイベントブースには21kgの重りが入った袋がありましたが、片手では持ち上げられない重さです。そんな重たい頭を乗せて、毎日ハイハイしたり、つかまり立ちをしたり、お散歩に行ったり…。何度も挑戦し、失敗しても繰り返しおこなう姿を見ると「頑張っていたんだな」と改めて感じました。

大人に都合よくデザインされた世界で子ども達は暮らしている…



私達大人が当たり前におこなっていることも、子どもにしてみれば全て大きな壁なのかもしれません。

実際に大きさが2倍になった牛乳パックとコップを持ってみました。牛乳パックは角が掴めず上手く持ち上げられません。コップはどうやったら安定するのか持ちながら考えないといけませんでした。

大人からすれば当たり前のデザインなのかもしれませんが、子どもにとっては、とても持ちにくかったり、持ち方すら分からなくなることもあると、体験しての気づきもたくさんありました。

子どものランドセル、大人の体感では約18.9kg?!

年中・年長さんになると少しずつ子ども達も“小学生”という認識が出てきます。そんな小学生と言えばランドセルです。ランドセルの平均重量は5.7kg。大人の男性に置き換えるとなんと18.9kgにもなるそうです。こんなに重いランドセルを背負って毎日学校に通っていると考えるとすごいですよね。子ども達の頑張りを褒めたくもなりました。

【イベントに行って気付いたこと】

- ◎子ども達が今の環境の中で精いっぱい過ごしていること
- ◎大人の尺度で出来事を見てしまっていること
- ◎子どもの気持ちになって多角的に考える必要性



今回イベントに行ってみて、子どもって改めてすごいなと感じました。自分が子どもだった頃もしていたことですが、大人になって体験出来たことはとても貴重でした。子どもの大変さに気付けた今、モンテッソーリ教育にもある『提示』の要領で子ども達にやり方を伝えたり、思いやりを持った関わりを意識していきたいと思います。

実際にエントランスに赤ちゃんの頭の重さを表現した重りと、2倍の大きさになった牛乳パックを置く予定です。みなさんもぜひ体験してみてください。

(ひなこ)